

## COLUMN

連載  
88

## 仕事について考える

札幌大谷大学社会学部  
教授 平岡祥孝

## この時節

になると、旅人の様に短い北国の夏を心いくまで満喫したいと思うものです。

採用活動のひとつ山場が終わりました。就職活動を継続していはいけません。「継続は力なり」ですから。他方、3年生はインターンシップが本格化する時期となります。

「内定学生と未内定学生とでは、就職活動のどの部分で違いがありますか」「内定を獲得する学生と獲得できない学生との差はどこにありますか」「なぜ内定が取れないのでしょうか」「などの質問を、メディアや高等学校教員から受けることが少なからずあります。

就業力を考へるならば、やはり経済産業省が提唱する「社会人基礎力」を養うことが非常に重要だと思います。社会人基礎力の力差が内定・未内定の明暗を分ける要因のひとつであることは、間違いないのではないか。言つまでもなく社会人基礎力は

「前に踏み出す力」(アクション)、「考え方」(シンキング)、「チームで働く力」(チームワーク)といふ3つの力です。そしてさらに、「前に踏み出す力」は主体性、働きかけ力、実行力の3つの要素から、「考え方」は課題発見力、計画力、創造力の3つの要素から、「チームで働く力」は発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロールの6つの要素から、それぞれ構成されています。

この社会人基礎力の各要素自体は何も珍しいものではありません。職業に一定期間従事してきた社会人であるならば、一般的に指摘する要素だと思います。この社会人基礎力の意義は、各人の経験値から従来導き出されていた要素を、一定程度可視化されて明確になりました。丁寧に説明説得していくことは、甘いでしょうかねえ。本人によつて気づきを与え、人の話に耳を傾けることと共に、自らを省みる姿勢や態度が養われていく方向に導くことが出来ると言えることは、甘いでしょうかねえ。本人に理解度からの納得感を持つてもうことです。日常的な信頼関係が基盤となるものの、親や教員が感情的対立を避けて寄り添う姿勢を示すことから、教育がはじまると思ふのですが。

ます。

たとえば、子どもと意見が対立したときに、子どもの意見を受け入れることなく全否定したうえで、ただ親として一方的に押さえつけられること。あるいは生徒や学生を指導するときに、教員の権威を振りかざして自らの意向に沿わせようとする。それらのような対応では、余計に関係を悪化させてしまい、親あるいは教員として正しいと言えるような方向性を示しても、彼ら彼女らに受け入れられない状況を作る危険性が大きいのです。



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。女子学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

## 上浦幌ひまわり保育園のみんな

6月23日(土)、親子しきしーションが行なわれました。猛暑の中でしたが、子どもたち・保護者の方々・観客の方々みんな一緒に楽しみました。



# 町長室から

## 今日現在

長雨が続いている  
ます。

前線が居座り続けており、ま  
さにエゾ梅雨といつてもいいの  
かも知れません。

九州・西日本では梅雨前線の  
停滞により、記録的な大雨で広  
範囲に200名以上の人命を失  
い、更に多くの行方不明者の搜  
索が懸命に続けられています。

災害にあつた皆様ご家族の皆  
様に心からお悔やみを申し上げ  
るとともにいち早い復興を願い  
たいと思います。

あれだけの豪雨が十勝を直撃  
したと考へると、全ての降雨量  
を十勝川で受け止める事は不可  
能であり、最下流にある浦幌町  
に大きな被害をもたらす事は明  
白で、他人事ではありません。

札幌から北海道防災士会の事  
務局長である横山春三氏に来て  
いただき、自助活動についての  
講演を行つていただきましたが、  
災害の基本は「自らの身は自ら  
が守る」とだと強調されてい  
ました。

情報を探して、まず逃げる段  
取りど、いつ何時そのような状  
態になるかわからぬだけに、  
最悪の事態に常に備えておくこ  
とが必要だと言われました。  
最近は想定外という言葉は死  
語化しており、災害は忘れない  
うちにやつてきます。

町としては、地域住民が助け  
合える自主防災組織を各行政区  
ごとに設置していただきたいと  
お願いしておりますが、設置と  
同時に、ご家庭では万が一の時  
にどうするか考え、話し合つて  
おくことも必要だと痛切に感じ  
ています。自主防災組織の詳細  
がご不明な場合には、町からご  
説明に参りますので、遠慮なく  
ご連絡いただければと思います。  
「備えあれば憂い無し」の言葉  
をかみ締めましょう。

第2回定例議会が開催され、  
議場において自治功労者表彰で  
議員25年以上の田村議長、15年  
以上の森副議長、杉江議員、福原  
議員が栄誉をお受けになられま  
した。「これまでの」「活躍に心か  
ら敬意を表したい」と思います。  
基幹産業の農協と漁協の総会  
も終了しましたが、平成29年度  
は決算的には明暗が分かれた総  
会となりました。

今年の作況は6月初旬まで良  
好に推移していましたが、最近  
の不順な天候で畑の状況が気に  
かかるところです。

何とか昨年以上の豊穣の秋を  
農水産とともに迎えてもらいたい  
ものです。

国民健康保険の北海道への広  
域化で保険料の増減が報道で取  
り上げられていますが、浦幌町  
は一律5千円の引き下げで対応  
できることになり、町民の皆さん  
への「負担」を抑えることが出  
来ました。

「教育の日実践交流会」が開催  
され、元浦幌中学校長で清水町  
教育長を経験された横山一男氏  
にご講演をいただきました。横  
山氏には浦幌町の教育の日を制  
定したフォーラムでもご講演し  
ていただき、教育の日のスター  
トを切らせていただいた経緯が  
あります。

この日は昨年に引き続き「ス  
マホ・ゲーム機使用のルール」に  
対し、浦幌学園、上浦幌学園から  
の取組み状況報告をしていただき  
ました。

横山氏には「基本的な生活習  
慣及び家庭学習の定着と学力・  
体力の向上」についてをテーマ  
に講演いただきましたが、浦幌  
町はコミュニケーション・スクールに  
すばらしい、IQ（知能指数）  
よりEQ（心の偏差値）が大切だ  
など情熱溢れる講演をしていた  
だき、会場溢れんばかりの聴衆  
者の感動を呼んでいました。

「浦幌町総合振興計画審議会」  
の第1回審議会が開催され、今  
年度からの委員さん30名に3年  
間の委嘱状を交付させていただ  
きました。

浦幌町の最上位計画である  
「第3期まちづくり計画」は平成  
32年度までの10年計画であり、  
後期3年目に入っていますが、  
第3期計画の検証とともに、新  
たな第4期計画についても審議  
をお願いすることになります。

人口減少社会に真正面から取  
り組みながら、浦幌町のまちづ  
くりを進めてまいります。

浦幌町長 水澤一廣